



竹林の整備を通じ、子どもたちに里山保全の重

竹林整備で地域に笑顔を

要性について理解を深めてもらう「へんちくりん」活動を展開。活動名には、竹林と人の関係が変わるようにとの願いが込められている。

長崎総合科学大に在学中、環境活動グループに所属し竹林整備などに携わった。もともと子ども

あの人
この人



環境保全教育研究所代表
いきつき ななこ
生月 菜々子さん

たちの自然体験プログラムに興味があったことから、経験を仕事に生かそうと卒業後に環境保全教育研究所を立ち上げた。

て切るときなど、子どもたちは想像以上による喜んでくれる」と笑う。

来年、同研究所はNPO法人へ移行し、活動をさらに強化。2月には市内の商店街で竹灯籠を並べるイベントも計画している。「環境分野で学ぶ学生が働ける場、活動を通じて地域の人々が笑顔になれる場を目指したい」と力を込める。長崎市の24歳。

繁殖力の高い竹は放置しておくと、雑木の侵入や生態系の破壊などを引き起こす。活動では、竹の伐採だけでなく、竹の細工や竹炭づくりなども実施。「のこぎりを使っ

（荒木竜樹）